

## 同変写像のホルディスム群

九大 教養 鎌田正良

### § 1. 序

向きづけの無い可微分多様体を考える.  $m$ 次元閉多様体から  $n$ 次元閉多様体への連続写像  $\alpha_i = (M_i^m \xrightarrow{f_i} N_i^n)$ ,  $i=1, 2$  に対して, 連続写像  $F: W \rightarrow B$  が

$$(1) \quad \partial W = M_1 \cup M_2, \quad \partial B = N_1 \cup N_2, \quad \cup \text{ は disjoint sum}$$

$$(2) \quad F|_{M_i} = f_i$$

をみたすように存在するとき,  $\alpha_1$  と  $\alpha_2$  はホルダントであると言ひ, この同値関係による類別の類を  $[\alpha]$  で表わす. 和は

$$[M_1 \xrightarrow{f_1} N_1] + [M_2 \xrightarrow{f_2} N_2] = [M_1 \cup M_2 \xrightarrow{f_1 \cup f_2} N_1 \cup N_2],$$

$$(\text{但し, } f_1 \cup f_2(x) = f_i(x) \text{ if } x \in M_i, \quad i=1, 2)$$

なる写像の disjoint sum で定義する. このようにして得られるアーベル群を  $\mathcal{H}_{m,n}$  によって表わす.  $\mathcal{H}_{m,n}$  の構造は, Stong [8] によって完全に決定されている.

予を有限群  $G$  の部分群の族で「 $H \in \mathcal{F}, g \in G \Rightarrow gHg^{-1} \in \mathcal{F}, K \subset H (e \in \mathcal{F}) \Rightarrow K \in \mathcal{F}$ 」をみたすものとする.  $\mathcal{F}' \subset \mathcal{F}$  を

$G$  の部分群の族の組とする.  $(\mathcal{F}, \mathcal{F}')$  自由多様体  $(M, \varphi)$ ,  $\varphi: G \times M \rightarrow M$ , とは,  $M$  の各点  $x$  のイソトロピー群  $G_x$  は  $\mathcal{F}$  に属し,  $x \in \partial M \Rightarrow G_x \in \mathcal{F}'$  をみたすものである.  $m$  次元及び  $n$  次元  $(\mathcal{F}, \mathcal{F}')$  自由多様体の間の同変写像  $\alpha_i = ((M_i^m, \varphi_i) \rightarrow (N_i^n, \psi_i))$   $i=1, 2$  に対して, 同変写像  $F: (W, W^+, \Phi) \rightarrow (B, B^+, \Psi)$  が存在し次をみたす時  $\alpha_1$  と  $\alpha_2$  は同値とする.

$$(1) \quad \partial W = M_1 \cup M_2 \cup W^+, \partial B = N_1 \cup N_2 \cup B^+, W^+, B^+ \text{ は部分多様体}$$

$$(2) \quad x \in W (\in B) \Rightarrow G_x \in \mathcal{F}, x \in W^+ (\in B^+) \Rightarrow G_x \in \mathcal{F}'$$

$$(3) \quad \Phi|_{G \times M_i} = \varphi_i, \Psi|_{G \times N_i} = \psi_i, F|_{M_i} = f_i$$

このような類別によつて与えられるホルディスム群を  $\mathcal{H}_{m,n}^G(\mathcal{F}, \mathcal{F}')$  で表わす.  $G$  多様体のホルディスム群 [10] と同様,  $\mathcal{F}'' \subset \mathcal{F}' \subset \mathcal{F}$  に対して, 次の exact triangle が得られる.

$$\mathcal{H}_{*,*}^G(\mathcal{F}', \mathcal{F}'') \longrightarrow \mathcal{H}_{*,*}^G(\mathcal{F}, \mathcal{F}'')$$

$$\swarrow \quad \searrow \\ \mathcal{H}_{*,*}^G(\mathcal{F}, \mathcal{F}')$$

[11] で Stong は  $\mathcal{F} = \{\mathbb{Z}_2, \{1\}\}$ ,  $\mathcal{F}' = \{\{1\}\}$ ,  $\mathcal{F}'' = \emptyset$  に対して  $\mathcal{H}_{*,*}^{\mathbb{Z}_2}(\mathcal{F}, \mathcal{F}')$ ,  $\mathcal{H}_{*,*}^{\mathbb{Z}_2}(\mathcal{F}', \mathcal{F}'')$  の構造について, homotopy representation を示している.

さて, この論文 [11] でみられるようなホルディスム論の展開として, 次の問題が考えられる.

[P-1] 有限群の準同型写像  $\rho: G_1 \rightarrow G_2$  に対して,  $G_i$  多様体  $(M_i, \varphi_i)$   $i=1, 2$  の同変写像  $f: (M_1, \varphi_1) \rightarrow (M_2, \varphi_2)$  ( $f(g_i x) = \rho(g_i) f(x)$ ) の分類せよ.

[P-2]  $\mathbb{Z}_2$ -同変写像  $f: (M, \varphi) \rightarrow (N, \psi)$  に対して, 固定点集合への制限  $f_F: M_F \rightarrow N_F$  と  $f$  との関係を調べよ.

この小文では, 上述の問題に関する若干の試みと, それから派生するいくつかの問題を報告する.

## §2. $\mathbb{Z}_2$ -同変写像の固定点集合への制限

リーマン計量を保存する  $\mathbb{Z}_2$ -作用を有する  $m$  次元多様体の間の同変写像  $f: (M^m, \varphi) \rightarrow (N^m, \psi)$  に対して次の事を仮定しよう.  $f$  は可微分写像であって, 各々の固定点集合を  $M_F = \cup F_i, N_F = \cup F'_i$  ( $F_i, F'_i$  は  $i$  次元成分) であらわすとき,  $f$  の微分写像  $df$  は  $F_i$  の法ベクトル束  $\nu_i$  から  $F'_i$  の法ベクトル束  $\nu'_i$  へのバンドル写像を誘導し,  $v, w \in E(\nu_i)$  に対し,

$$\langle v, w \rangle_M = \langle df v, df w \rangle_N$$

を満すものとする.  $\langle, \rangle$  はリーマン計量を表わす.  $\nu_i$  と一次元 trivial 束  $\theta'$  の Whitney 和  $\nu_i \oplus \theta'$  上に  $\mathbb{Z}_2$ -作用を,

$$g \cdot (v, w) = (g \cdot v, -w) \quad g \in \mathbb{Z}_2 \text{ は生成元}$$

とすれば, 同位球面バンドル  $S(\nu_i \oplus \theta')$  に  $\mathbb{Z}_2$  作用が導入され

$\alpha f$  より,  $\mathbb{Z}_2$ -自由多様体の間の同変写像  $\bar{f}_i: S(\nu_i \oplus \theta^1) \rightarrow S(\nu_i' \oplus \theta^1)$  を得る. (cf. [4], §27)

命題 2.1.  $\mathcal{N}_{n,m}$  において,

$$[M^m \xrightarrow{f} N^m] = \sum [S(\nu_i \oplus \theta^1)/\mathbb{Z}_2 \xrightarrow{\bar{f}_i} S(\nu_i' \oplus \theta^1)/\mathbb{Z}_2]$$

$m$ 次元多様体,  $A, B$ の間の写像  $f: A \rightarrow B$  に対して,  $[A]^*$ ,  $[B]^*$  を  $\mathbb{Z}_2$ -係数コホモロジーでの基本類とすると,  $f$  の位数  $\circ(f)$  を次の式で定義する.  $f^*[B]^* = \circ(f)[A]^*$ .

定理 2.2. この節の仮定の下で,  $f_i = f|F_i$  とし,  $\chi(\cdot)$  で  $\mathbb{Z}_2$ -係数コホモロジーに簡約されたオイラー数とすると

$$\circ(f) \chi(N^m) = \sum \circ(f_i) \chi(F_i')$$

証明は  $\sum [S(\nu_i)/\mathbb{Z}_2 \rightarrow S(\nu_i')/\mathbb{Z}_2] = 0$  及び命題 1.1 が用いられ, Stong [8] による写像  $f: A \rightarrow B$  のホルティスム不変量  $\langle W_\omega(B) f_* (W_{\omega_1}(A)) \cdots f_* (W_{\omega_r}(A)), [B] \rangle$ , ( $f_*: H^*(A) \rightarrow H^*(B)$  は Umkehrung homomorphism) と  $k$  次元ベクトル束  $\xi^k$  の同位射影空間バンドル  $P(\xi^k)$  に対する特性類の関係式  $W_{n+k-1}(P(\xi^k)) = k C^{k-1} \pi^* W_n(X)$  [2] ( $C$  は  $P(\xi^k)$  上の標準直線束の 1 次 Whitney 類,  $\xi \xrightarrow{\pi} X$  は  $n$  次多様体  $X$  上のバンドル) を利用する.

この結果で,  $f$  を恒等写像とすれば,  $\mathbb{Z}_2$ -多様体  $V$  の固定点集合  $F$  に対しての次の式を得る. ([4, (27.2)], [17])

$$\chi(F) = \chi(V)$$

自然に次の問題が考えられる.

[P-3] ボルディスム不変量を利用して, 一般次元の場合の写像  $f: M^m \rightarrow N^n$  とその固定点集合への制限の関係を調べよ.

### §3. ファイバー空間に付随した写像のボルディスム群

この節では群作用が自由な場合を考える. 有限群の準同型写像  $\rho: H \rightarrow G$  に対し, 自由  $H$  多様体  $(M^m, \varphi)$  から自由  $G$  多様体  $(N^n, \psi)$  への同変写像

$$f: M^m \rightarrow N^n, \quad f(h \cdot x) = \rho(h) f(x), \quad h \in H, x \in M$$

を  $(m, n)$  次元の  $(H \curvearrowright G)$  同変写像と呼ぶ. 閉多様体間の

$(m, n)$  次元  $(H \curvearrowright G)$  同変写像  $(M_i, \varphi_i) \xrightarrow{f_i} (N_i, \psi_i) \quad i=1, 2$  が

ボルダントであるとは, 適当なコンパクト多様体間の  $(m+1,$

$n+1)$  次元  $(H \curvearrowright G)$  同変写像  $F: (W, \Phi) \rightarrow (B, \Psi)$  が存在し

$$(1) \quad \partial W = M_1 \cup M_2, \quad \partial B = N_1 \cup N_2$$

$$(2) \quad \Phi|_{H \times M_i} = \varphi_i, \quad \Psi|_{G \times N_i} = \psi_i, \quad F|_{M_i} = f_i$$

をみたすときに言う. この類別で得られるボルディスム群を

$$\mathcal{R}_{m,n}(H \curvearrowright G)$$

と表わす。これを解析するために次の3つのホルディスム群を用意しよう。

(I) 位相空間  $X$  に対して,  $m$ 次元多様体  $M$ ,  $n$ 次元多様体  $N$  との合成写像  $M \xrightarrow{f} N \xrightarrow{g} X$  を考える。閉多様体との合成写像  $M_i \xrightarrow{f_i} N_i \xrightarrow{g_i} X$ ,  $i=1, 2$  がホルダントであるとは, 適当なコンパクト多様体との合成写像  $W \xrightarrow{F} B \xrightarrow{G} X$  が存在し

(1)  $\partial W = M_1 \cup M_2$ ,  $\partial B = N_1 \cup N_2$  (2)  $F|_{M_i} = f_i$ ,  $G|_{N_i} = g_i$  をみたすことである。このホルディスムによる類別から得る群を  $\mathcal{R}_{m,n}(X)$  と表わす。

(II) 位相空間  $X, Y$  に対し,  $m$ 次元  $M$ ,  $n$ 次元  $N$  なる多様体との図式  $X \xleftarrow{g} M \xrightarrow{f} N \xrightarrow{h} Y$  を考える。閉多様体との図式  $X \xleftarrow{g_i} M_i \xrightarrow{f_i} N_i \xrightarrow{h_i} Y$ ,  $i=1, 2$  がホルダントとは, 適当なコンパクト多様体との図式  $X \xleftarrow{G} W \xrightarrow{F} B \xrightarrow{H} Y$  が存在して

$$(1) \quad \partial W = M_1 \cup M_2, \quad \partial B = N_1 \cup N_2$$

$$(2) \quad F|_{M_i} = f_i, \quad G|_{M_i} = g_i, \quad H|_{N_i} = h_i$$

をみたすことである。この類別で与えられるホルディスム群を  $\mathcal{R}_{m,n}(X; Y)$  と表わす。

(III) 写像  $g: X \rightarrow Y$  に対して,  $m$ 次元  $M$ ,  $n$ 次元  $N$  なる多様体との可換な図式  $M \xrightarrow{g} X$  を考える。

$$\begin{array}{ccc} f \downarrow & & \downarrow g \\ M & \xrightarrow{h} & N \\ & & \downarrow g \\ & & Y \end{array}$$

閉多様体との可換な図式  $M_i \xrightarrow{g_i} X$ ,  $i=1, 2$  がボルダレットと

$$\begin{array}{ccc} f_i \downarrow & & \downarrow \bar{f} \\ N_i & \xrightarrow{h_i} & Y \end{array}$$

は, コンパクトな多様体との可換図式

$$\begin{array}{ccc} W & \xrightarrow{G} & X \\ F \downarrow & & \downarrow \bar{F} \\ B & \xrightarrow{H} & Y \end{array}$$

が存在して,

$$(1) \partial W = M_1 \cup M_2, \quad \partial B = N_1 \cup N_2$$

$$(2) F|_{M_i} = f_i, \quad G|_{M_i} = g_i, \quad H|_{N_i} = h_i$$

をみたすことである. このボルディスム群を  $\mathcal{C}_{m,n}(X \xrightarrow{f} Y)$  と表わす. これは Stong によって考えられたものである.

命題 3.1. ([117], [5])  $\mathcal{C}_{m,n}(G \xrightarrow{id} G) \cong \mathcal{C}_{m,n}(BG)$

但し,  $BG$  は  $G$  の分類空間を表わす.

命題 3.2.  $\mathcal{C}_{m,n}(H \xrightarrow{f} G) \cong \mathcal{C}_{m,n}(BH \xrightarrow{Bf} BG)$

3.2 の同型対応は  $[(M, \varphi) \xrightarrow{f} (N, \psi)]$  に対して,

$$\begin{array}{ccc} M/H & \xrightarrow{\bar{f}} & BH \\ \bar{f} \downarrow & & \downarrow Bf \\ N/G & \xrightarrow{\bar{h}} & BG \end{array} \quad \begin{array}{l} \bar{f} \text{ は商写像} \\ \bar{f}, \bar{h} \text{ は } M \rightarrow M/H, N \rightarrow N/G \\ \text{の分類写像} \end{array}$$

のボルディスム類を対応させる.

以上のことから [P-1] を調べるためには次の問題を解けば

よいことになる (これは Stong の示唆による.) .

[P-4] ファイバー空間  $E \xrightarrow{q} X$  に関する写像のホルディスム  $\mathcal{C}_{m,n}(E \xrightarrow{q} X)$  を決定せよ.

命題 3.3.  $\mathcal{C}_{m,n}(X \times Y \xrightarrow{p} Y) \cong \mathcal{C}_{m,n}(X; Y)$

この同型は, 可換図式  $M \xrightarrow{g} X \times Y$  の類に対して,

$$\begin{array}{ccc} & & \\ & \downarrow f & \downarrow p \\ & N & \xrightarrow{h} Y \end{array}$$

$[X \xleftarrow{p \circ g} M \xrightarrow{f} N \xrightarrow{h} Y]$  を対応させることにより得る.

[P-4] の問題については筆者は, 射影  $p: X \times Y \rightarrow Y$  の場合しかくわしく情報を得てない. 即ち  $\mathcal{C}_{m,n}(X; Y)$  及び  $\mathcal{C}_{m,n}(X)$  の構造が現在まで得られているところである.

$BO(n)$  上の普遍束  $\gamma_n$  及び trivial  $k$  次元束  $\theta^k$  及び位相空間  $X$  に対して,  $\gamma_n \times \theta^k \times X \rightarrow \gamma_{n+k} \times X$  なるバンドル写像が与えられて, これより Thom complex の間の写像

$$MO(n) \wedge S^k \wedge X^+ \rightarrow MO(n+k) \wedge X^+$$

を誘導し, この adjoint map  $MO(n) \wedge X^+ \rightarrow \Omega^k(MO(n+k) \wedge X^+)$  より自然に  $\Omega^k(MO(n) \wedge X^+) \rightarrow \Omega^{k+l}(MO(n+k) \wedge X^+)$  が導かれる. これによって direct system  $\{\Omega^k(MO(k+n) \wedge X^+), k\}$  が構成される. この system によって, 次の同型を得る.



命題 3.4. ([11], [5])  $\mathcal{C}_{m,n}(X) \cong \varinjlim_{\mathbb{R}} \mathcal{C}_n(\Omega^k(MO(n-m+k) \wedge X))$

命題 3.5.  $\mathcal{C}_{m,n}(X; Y) \cong \varinjlim_{\mathbb{R}} \mathcal{C}_n(\Omega^k(MO(n-m+k) \wedge X^+) \times Y)$

3.5の対応:  $\alpha = [X \xleftarrow{g} M^m \xrightarrow{f} N^n \xrightarrow{h} Y]$  ( $f$  は可微分写像としてよい)に embedding  $M \xrightarrow{e} S^k$  をとり,  $M \xrightarrow{e \times f} S^k \times N^n$  の法ベクトル束を考えるとその分類写像を  $\tilde{f}$  とし, バンドル射影を  $\pi$  で表わす. このとき次の写像が導かれる.

$$\tilde{f}: S^k \times N^n \xrightarrow{c} D(\nu)/S(\nu) \xrightarrow{\tilde{f} \times g \circ \pi} D(\gamma_{n+k-m}) \times X / S(\gamma_{n+k-m}) \times X$$

$D()$ ,  $S()$  は各々 disk (sphere) バンドルを表わす.

$\tilde{f}$  の adjoint map を  $\tilde{f}: N^n \rightarrow \Omega^k(MO(n-m+k) \wedge X^+)$  とすれば

$$\Phi(\alpha) = [N^n \xrightarrow{\tilde{f} \times h} \Omega^k(MO(n-m+k) \wedge X^+) \times Y]$$

§4.  $\varinjlim_{\mathbb{R}} \mathcal{C}_*(\Omega^k MO(k+n-m) \wedge X^+)$  及び特性数

前節でみたように  $\mathcal{C}_{*,*}(X \times Y \xrightarrow{p} Y)$  は  $\mathcal{C}_{*,*}(X; pt) \cong$

$\varinjlim_{\mathbb{R}} \mathcal{C}_*(\Omega^k(MO(k+n-m) \wedge X^+))$  が実質的に重要である. この構造を知るために次の重要な定理を思い起そう.

[Milnor-Moore [6]]  $A$  を体  $F$  上の connected Hopf algebra とし,  $M$  を left  $A$ -module で counit  $U$  をもつような  $F$  上の connected coalgebra とする. diagonal map  $\Delta: M \rightarrow M \otimes M$  が  $A$ -homomorphism であって,  $A \rightarrow M$  ( $a \mapsto a \cdot U$ ) が単射

ならば  $M$  は free  $A$ -module である.

定理 4.1.  $X$  を  $H$ -空間で finite type の CW-complex とすると十分大きな  $k$  に対して,

$$\mathcal{R}_{m,n}(X; pt) \cong \sum_{i+j=n} \mathcal{R}_i \otimes \tilde{H}_j^{\left(\prod_{i=0}^{-m+n+k-2} K(\mathcal{R}_i(X), n-m+i); \mathbb{Z}_2\right)}$$

証明は Milnor-Moore の定理にある counit  $U$  の存在と,  $a \mapsto a \cdot U$  が単射であることを  $\tilde{H}^*(MO \wedge X^+)$  に対して調べるのが本質的である. 但し  $A$  として Steenrod algebra  $\mathcal{O}_2$  をとる.  $\tilde{H}^*(MO; \mathbb{Z}_2)$  については counit は Thom 類によって表現されるもの  $U$  であり,  $a \mapsto a \cdot U$  が単射であることは [13] で示されている.  $\tilde{H}^*(MO \wedge X^+; \mathbb{Z}_2)$  の場合も counit として  $U \otimes 1$  をとればよい.

さらに, 一般にして, 次の問題が生じる.

[P-5]  $X$  を一般として  $\varinjlim_k \tilde{H}_n(\Omega^k(MO(k+n-m) \wedge X^+))$  の構造を調べよ.

$\varinjlim_k \tilde{H}_n(\Omega^k(MO(k+n-m); \mathbb{Z}_2))$  は Stong [8] によって,  $\varinjlim_k \tilde{H}_* (\Omega^{2k} MU(n+k); \mathbb{Z})$  については, Ravenel - Wilson [7] によって研究されている.

この類に属する結果としては, Immersion のボルディスム群  $I(m, k)$  について

定理 4.2. [12]  $I(m, k) \cong \mathcal{R}_{m+k}(\mathbb{Q}MO(k))$

但し,  $QMO(k) = \varinjlim \Omega^r \Sigma^r MO(k)$ .

がある. さらに Immersion のホルテイスムについては,  
Uchida [14] Wells [15] 等の研究がある.

特性数について述べることにしよう. 有限型 CW-complex  
 $X, Y$  に対して,  $\alpha = [X \xleftarrow{g} M \xrightarrow{f} N \xrightarrow{h} Y] \in \mathcal{C}_{m,n}(X:Y)$   
の特性数を次の式で与える.

$$\langle g^*(x) f^* h^*(y) f_* f_*(W_{\omega_1}(M)) \cdots f_* f_*(W_{\omega_r}(M)) W_{\omega_r}(M) f^* W_{\omega}(N), [M] \rangle$$

$x \in H^*(X; \mathbb{Z}_2), y \in H^*(Y; \mathbb{Z}_2)$ ,  $f_*$  は Umkehrung homomorphism.

定理 4.3. [5]  $\alpha = 0 \iff \alpha$  の任意の特性数 = 0

証明は命題 3.5, 定理 3.1 を用いて示すことができる.

Embedding のホルテイスム群は  $\mathcal{C}_{n+k}(MO(k))$  で表現される.  
例えば  $\mathcal{C}_{n+k}(MO(k)) \rightarrow \mathcal{C}_{n,n+k}$  の像を調べたものとして  
Brown [3] の次の定理がある.

定理 4.4. [3]  $f: M^n \rightarrow N^{n+k}$  が embedding とホルタントであるための必要十分条件は次の 2 条件をみたす事である.

$$(i) \langle f^* W_{\omega}(N) \cdot W_{\omega_1}(M) \cdots W_{\omega_r}(M) (\bar{W}_i(f))^{r-1}, [M] \rangle = 0$$

if  $r > 1$ ,  $i > k$ .

$$(ii) \quad \langle W_\omega(N) f_* W_{\omega_1}(M) \cdots f_* W_{\omega_r}(M), [N] \rangle \\ = \langle f^* W_\omega(N) W_{\omega_1}(M) \cdots W_{\omega_r}(M) (\bar{W}_f(f))^{r-1}, [M] \rangle$$

$$\text{但し, } \bar{W}(f) = \bar{W}(M) f^* W(N)$$

$$\bar{W}(M) W(M) = 1$$

この定理から類推される問題として,

[P-6]  $I(m, n) \rightarrow \mathcal{R}_{m, n}$  の像を調べよ.

§5.  $\mathcal{R}_{m, n}(\mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_q \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_q)$  について

$\mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_q \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_q$  なる自然な射影に対する自由同変字像について述べることにする. 定理4.1と命題3.5を調べて具体的な  $\mathcal{R}_{*, *}(\mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_q \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_q)$  の幾何学的生成元を知ることが目的である.

命題 5.1.  $q$  が奇数のとき

$$\mathcal{R}_{m, n}(\mathbb{Z}_q \times \mathbb{Z}_2 \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_2) \\ \cong \sum_{i=0}^m \mathcal{R}_{m-i, n-i}([\mathbb{Z}_q \times \mathbb{Z}_2, \mathbb{Z}_q \times S^i] \xrightarrow{\pi} (\mathbb{Z}_2, S^i))$$

但し,  $(\mathbb{Z}_q \times \mathbb{Z}_2, \mathbb{Z}_q \times S^i)$  は  $\mathbb{Z}_q$  が  $\mathbb{Z}_q$  に群作用で  $\mathbb{Z}_2$  は  $S^i$  に対称点対応の作用で与えられる  $\mathbb{Z}_q \times \mathbb{Z}_2$ -自由多様体,  $(\mathbb{Z}_2, S^i)$  は対称点対応による  $\mathbb{Z}_2$ -多様体を示す.

命題 5.2.  $p, q$  が奇数のとき,

$$\begin{aligned} & \mathcal{N}_{m,n}(\mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_q \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_q) \\ & \cong \mathcal{N}_{m,n}([\mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_q, \mathbb{Z}_p \times \mathbb{Z}_q] \xrightarrow{\pi} (\mathbb{Z}_q, \mathbb{Z}_q)) \end{aligned}$$

命題 5.3.  $n > 2m + 2$  のとき

$$\begin{aligned} & \mathcal{N}_{m,n}(\mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2 \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_2) \\ & \cong \sum_{\substack{s+l+k=m \\ t+l+k=n}} \mathcal{N}_{s,t}([\mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2, S^l \times S^k] \xrightarrow{\pi \times \text{id}} (\mathbb{Z}_2, P^l \times S^k)) \end{aligned}$$

但し,  $(\mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2, S^l \times S^k)$  は  $\mathbb{Z}_2$  が各々の球に対称点対称で作用する  $\mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2$ -多様体,  $(\mathbb{Z}_2, P^l \times S^k)$  は  $\mathbb{Z}_2$  が  $S^k$  に対称点対称で作用する  $\mathbb{Z}_2$ -多様体,  $P^l$  は実射影空間を示す.

[P-7]  $\mathcal{N}_{*,*}(\mathbb{Z}_2 \times \mathbb{Z}_2 \xrightarrow{\pi} \mathbb{Z}_2)$  の生成元を決定せよ.  
は残されている問題の一つである.

### 参考文献

- [1] A. Borel et al, Seminar on transformation in groups, Ann. Study 46. Princeton (1960)
- [2] A. Borel and F. Hirzebruch, On characteristic classes of homogeneous spaces I, Amer. J. Math. 80. 458-538
- [3] R.L. Brown, Stiefel-Whitney numbers and maps

- cobordant to embeddings, Proc. Amer. Math. Soc. vol. 48. No. 1  
(1975) 245-250
- [4] P. E. Conner and E. E. Floyd, Differentiable Periodic maps,  
Ergebnisse der Mathematik und ihre Grenzgebiete Band 33  
(1964)
- [5] M. Kamata, A generalization of cobordism of maps
- [6] J. Milnor and J. Moore, On the structure of Hopf  
algebras, Ann. of Math. 81. (1965) 211-264
- [7] D. C. Ravenel and W. S. Wilson, The Hopf ring  
for complex cobordism
- [8] R. E. Stong, Cobordism of maps, Topology vol. 5  
(1966) 245-258
- [9] R. E. Stong, Notes on Cobordism Theory, Princeton  
Math. notes (1968)
- [10] R. E. Stong, Unoriented bordism and actions of  
finite groups, Mem. Amer. Math. Soc. 103. (1970)
- [11] R. E. Stong, Equivariant bordism of maps, Trans.  
of Amer. Math. Soc. vol. 178 (1973) 449-458
- [12] P. A. Schweitzer, Joint cobordism of immersions  
Lecture note 169 Springer Verlag (The Steenrod  
algebras and its applications) (1970) 267-282

- [13] R. Thom, Quelques propriétés globales des variétés différentiables, *Comment. Math. Helv.* 28 (1954) 17-86.
- [14] F. Uchida, Exact sequences involving cobordism group of immersions, *Osaka J. Math.* 6 (1969) 397-408
- [15] R. Wells, Cobordism groups of immersions, *Topology* 5 (1968) 281-294